

## 委員から事前に伺った補足事項

| 委員名 | 内容  |
|-----|---|
| A   | <p>施策 1-2 の「子育て中の親を支援する環境を充実させる」について、答申書にもあるように、市の対応が小学生までの支援にとどまっており、ここ最近も中高生の保護者の悩みについての相談を受けることが続いています。</p> <p>改めて、市の今後の対応に期待したいところです。</p>   |
| B   | <p>(施策 1-2 について)</p> <p>まちづくり基本構想のもと、こども施策が一つひとつ丁寧に検討され現場に届こうとしていることを、市民の立場からも心強く感じています。ありがとうございます。</p> <p>1)事業軸ではなく「人生のタイムライン軸」での可視化について</p> <p>現在の施策評価は、事業ごとに整理・評価されており、個々の取組の内容や成果は把握しやすい一方で、子どもや保護者の人生全体の中で、支援がどのようにつながっているのかという全体像が見えにくいと感じている。「切れ目ない支援」であってほしいし、それを掲げているのであれば、年齢（例：0 歳～18 歳、あるいは 25 歳程度）を横軸にした人生のタイムライン上に、各支援や事業を配置し、可視化する視点を取り入れてはどうか。そうすることで、支援が手厚く重なっている部分と、逆に支援の谷間・空白地帯が明確になり、本当に切れ目のない支援となっているのかを検証しやすくなると思う。</p> <p>2)小1・中1ギャップ、不登校への支援について</p> <p>小1ギャップ・中1ギャップ、不登校といった課題については、問題としては十分に認識されていると感じる。一方で、施策全体としては「起きてからの対応」が中心となり、「予防」「早期介入」「継続支援」という視点がやや弱いのではないかと感じる。就学前や小学校低学年の段階からの接続支援が、施策としてどのように位置づけられているのか、また不登校に至る前段階での支援が十分か、改めて整理する必要があると考える。教師や保護者の負担や不安は、子どもの不安につながりやすく、大人への環境整備そのものが、子どもにとっての予防的支援になると考えている。</p> <p>また、小1・中1ギャップや不登校の背景には、学習面だけでなく、家庭環境や養育状況、保護者の負担や孤立といった福祉的課題が重なっているケースも少なくない。教育分野の取り組みが学校内で完結するのではなく、福祉分野とより密に連携し、就学前から学齢期、思春期までを見通した支援体制を構築することで、予防的な関わりや早期の支援につながるのではないかと考える。</p> <p>3)「親支援＝子ども支援」への再検討</p> <p>基本的には、親を支援することは子どもを守ることにつながると考えている。ただし、それが常に一致するとは限らず、親のための支援が、子どもにとっては負担になっているケースも想定される。その支援が、子ども本人にとってどうなのか、子どもの声・行動・ネットワークといった視点が、施策評価に反映されているかを問い直す必要がある。「こどもまんなか」をスローガンにとどめず、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪子どもの成長段階を軸にした支援の可視化</li> </ul> |

|   |   |
|---|---|
|   | <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 切れ目がないかの検証</li> <li>▪ 子ども本人の声、心身の健康を評価に取り入れること</li> </ul> <p>を意識的に進めることで、結果として保護者が安心して支援につながれる環境整備につながると考える。</p>   |
| C | <p>(2) まちづくり基本構想 施策 7-3, 2-3<br/> (3) まちづくり基本構想 施策 6-3</p> <p>※どちらかという(2)が希望ですが、(2)(3)どちらに位置付けていただいてもかまいません。趣旨としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「活動人口」や「協働人口」といった言葉で答申にも表現されているように、住む人・訪れる人をいかに地域の暮らしや活動に取り込み、経済的な価値や社会的な価値を生むプロジェクトを生み出していけるか</li> <li>・キッカケラボをひとつのハブにしつつ、それだけにとどまらず、官民公の連携促進が(人材交流などの面でも)さらに必要ではないか</li> </ul> <p>といった点に触れられれば幸いです。</p> |
| D | <p>企業版ふるさと納税に期待する(頼りにする)のは、自治体の本来の政策(姿)ではないように感じます。</p> <p>基本的には、税収が増える(ヒトや企業が増える)ことを考えるべきで、同時に、限られた税収(カネ)で、各種の公共サービスをいかに充実できるか(いかに住民の満足度を高めるか)を考えるべきだと思います。</p> <p>そのためにも、コンセッション、PFI、指定管理者制度などを積極的に取り入れ、他の自治体の成功例を参考・分析することが重要だと思います。</p>   |
| E | <p>(全体に対して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・庁内の部課を超えた連携、情報共有</li> <li>・課題解決に関する既存の枠を超えた発想力、行動力を生み出すドライブ</li> </ul>  |